

# 耳を傾けてみませんか！ 若者の夢・未来へのメッセージ

## 発表を聞いて

### 中学生

どの発表もすばらしく、聞いている内にどんどん引き込まれていきました。人に伝えるための工夫や練習をたくさん積み重ねたのだと思いますが、それだけでなく、日頃の身近な問題を自分の頭で真剣に考えたことが力のある発表になったのでしょうか。私自身、日常の問題をつい流してしまいがちですが、ひとつでもいいから真剣に考えてみようと思いました。

### 教員

大きな声でハキハキと情感豊かに、そして堂々と発表する姿に感銘を受けました。テーマも多岐にわたり、今の日本の状況に改めて気づかされました。作文としても優れたものばかりで、今後の指導に役立てていきたいです。この大会に参加したことは、発表した中学生にとっても、私たち教員にとっても自分自身が成長できる大変によい体験でした。

### 来場者

すべて立派な発表でたいへん感動しました。中学生がここまで物事を深く考えていることに驚かされました。中学生の発表は、私たち大人への問題提起のように感じられました。私たち自身もこれからいろいろと考えていかなければならないと強く感じました。それと、審査時間の少年少女の合唱は、軽やかで澄んだ歌声でとてもよかったです。

## 昨年の県大会



## 「少年の主張発表大会」について

この大会の原型は、昭和40年代に塩谷地区・安足地区で開催されていた「少年の意見発表大会」だそうです。その後県大会の開催を目指し県内各地区で地区大会が開催されるようになりました。「第1回栃木県少年の主張コンクール」が開催されたのは昭和53年11月28日でした。会場は宇都宮市立旭中学校で、県内8地区の代表16名が参加しました。昭和57年の第5回大会から名称が「栃木県少年の主張発表大会」となりました。

「第1回少年の主張全国コンクール」は、昭和54年11月4日に、国際児童年の記念行事として、当時の皇太子殿下・妃殿下ご臨席のもと福岡市で開催されました。各都道府県の最優秀賞受賞者が参加しましたが、前年に第1回を開催していた栃木県は第2回県大会の最優秀賞受賞者が参加しました。栃木県大会の回数が全国大会より1回多いのはこのような事情です。また、全国大会の開催に当たり、一年早く開催された栃木県大会が大いに参考にされています。

県大会は現在も各地区代表16名の参加で開催されていますが、昨年度の県内の総参加者数は県内中学生等の約35%にあたる19,731名でした。全国大会は47都道府県の代表が参加し、その中で各ブロックから選考された12名の発表により開催されますが、昨年度の全国の総参加者数は全国の中学生等の約16%にあたる542,236名でした。



毎月第3日曜日はふれあい育む「家庭の日」



とちぎ県民カレッジ講座  
<http://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>